

# 道路愛護綴方募集に就て

河村協

神武天皇が天業を創め給ふに際しての詔に、

「……地ヲ大和ノ橿原ニトシテ大イニ土木ヲ興シ天賞命ヲ以テ役ヲ董サシメ……」とあるを見ても、我國開關の始めから土木事業が國家建設の上に離るゝことの出来ない關係にあつたことが知れるのであります。

従つて戦争と土木とは密接不離な重大關係を有するのであります。現下戦局は愈々重大苛烈なる空の決戦下に於て、何よりも必要な飛行場は即ち土木施設であります。又皇軍電撃作戦の蔭には、何時も工兵の奪い姿が潜在してゐるのであります。彼のマレー作戦に當りても皇軍進撃の早さは工兵の架橋の早さであつたと謂はれます。

作戦の要決たる所望の地點へ、所要の時刻に所期の兵力を集結する爲には必ず道路を必要とするのであります。ドイツは僅か二ヶ年の間にフランスを始め數ヶ國を脚下に蹂躪したのであります。それは主としてヒットラー自動車道路が、ドイツの發明した「新兵器」としての最大なる役目を遂行したからだと謂はれてゐます。

軍隊の移動、軍需資材の輸送は言ふまでもなく、鐵道又は工場への

材料の蒐集及び其の搬出、工場相互間の連絡、生産地と搬出港、或ひは消費地との連絡、又生産地相互間の連絡等、生産力の擴充も、國防の充實も、或ひは物動計畫の實施、國民生活の必需品の配給も、凡ゆる物資は圓滑なる輸送に俟たなければなりません。

茲に於て道路改良を圖ることは眞に緊要なことであります。道路の不完全は其の上を通る運輸機關に大なる損害を與へる、即ち第一に自動車の速度が制限せられ、車體の損傷が多く、「タイヤ」其の他の部品も消耗が早く、燃料は浪費される等其の活動に障害せられ、輸送力は著しく減殺されるのであります。

然し乍ら道路を改良するためには多くの月日と經費と勞力資材を要するので、先づ現在道路の維持修理の完備を期することが喫緊の急務であります。然し之とても亦其の經費勞力資材には自ら限界がありまして、單に當事者の努力のみで其の目的を達することは容易でなく、どうしても地元居住者の愛路作業に俟たなければなりません。

されど道路は純然たる公共の機關であり、空氣や水と同様に、あまりに日常其の恩澤に浴し過ぎてゐる爲か、直接一般公衆の關心の圈外





## 道路を直して

柳井校初四 天尾 完次

先日の事であつた。道路が凹んでゐるところへ、水がたまつてゐた。そこへ自動車が出来て「ピシヤッ」とその水をはね飛ばして向かふへ行つてしまつた。見ると凹んでゐた所はなほ一そう凹んで、交通に大變都合が悪い。そこで母にその事を話すと「それではさつそく直して置きなさい。よい事をするに敵はないからね。」といはれたので、さつそく仕事にとりかゝつた。

先づ近くから土を運んで来て凹んだ所へ入れた。それから小石を入れて、その上に又土を入れた。やつとの事ですみ、ほつと一息ついて空を見上げた時は、ほんたうにうれしかつた。

此の凹んだ所を、一寸直しただけでも、何百人かの人々が助かるのだ。それを思ふと道路がいかに、我々人間の爲に役立つてゐるかどうかとはれるのである。それで我々はこれより一そう道路を愛し、又、護らなければならぬ。

## 道路 愛護

東田布施校初四 金具 洋右

人の體の血くだのやうに、日本國中どこからどこまででもつゞいてゐる道は、とても大切だ。その大切な道が、りつばにお役に立つやうに守ることは、儼ら小國民にでもできることです。いゝえ、大人の方とはとても忙しいのですから、道路を守るのは小國民僕たちの、つとめといつてもよいでせう。

ちやまものをのける。掃除をする。すこし位のしふぜんはする。これ位は、たれにいはいれないでも、僕たちがしてよいと思ひます。

ある日僕が學校に行く途中、道路さんに「何が一番こわいか。」と聞いて見ると、「雨です。」と答へました。ふしぎに思つて、そのわけをきくと、「雨が降ると、私の體はやわらかになります。その上を馬車や自動車が通ると、そこがすぐにおできになるからです。」と申しました。

僕はなるほど思ひました。その後雨の降つた時見ると、いつもいたむところがとろ／＼になつてゐます。さつそく、僕は、砂利や砂を持つて行つて、そこに入れました。それから幾日かして、そこを通ると「先日はありがたう。よいお薬をいたゞいたのでおできがすつかりなほりました。」と道路がおれいをいひました。

道路は戦争にもなくてはならない大切なものです。日本國中で、道路くらの銃後のお手がらをたてゝゐるものはないでせう。

## 道路 掃除

神東校初五 中里壽美子

毎月十日と二十日は私達少年團の道路掃除日です。目がさめるともう五時が過ぎてゐました。外はまだうす暗くお星様がきら／＼光つてゐます。鍬をかついで家を出ました。うす暗い道を急いで行きました。何時もの所に行つて見るとまだ誰も来てゐません。その中にあちこちからみんなが集つて來ました。

あたりはだん／＼明るくなり、近所の人もおぼつ／＼通られるやうに

なりました。

丁度六時團長さんの號令で、宮城を遙拜し「掃除始め」の號令で一齊に仕事に取りかかりました。草刈りをする人もあれば鎌で草をけづる人もあります。片はしからざく／＼けづられて美しくなつて行く道を見ると、おもしろいやうでした。箒ではいたり鎌でけづつた草を堆肥場へはこんだりして、すつかりきれいな道にしました。

これなら人が通られてもらくであります。牛車や馬車や其の他いろ／＼の荷車でも威勢よく、さつさと通行する事が出来ます。

今は人手の少い時ですから手まをかけたで、たくさん物を運ばなくてはなりません。さうしてあのたくい米英を早くやつ／＼けて大東亞戦争の最後の勝利を占めなければなりません。兵隊さんたちは自分の命をなげすめて勇しく戦つていらつしやいます。私達はそれのおかげで楽しく勉強出来るのですから、子供の手で出来ることを力一ぱいしてお役に立たねばなりません。

道路の掃除をすることは私達の大事な務の一つであります。近所の人々も大へん喜んで下さいます。これからも、もつと／＼しつかりやつてお國のために働かうと思ひます。

向ふの島に太陽が明るいかほを出しました。ちやうど「よくやつたね。」といつてゐるやうに。團長さんの號令で皆んな元氣よく歌を歌ひながらかへりました。

道路 愛護

鳴門校初六 藤田 範幸

九月十二日の夕方の事である。道を通るものについて調べて見た。時間は五分間ときめた。

(イ) 乗りもの

「がら／＼。」といふ音を立て、通つたのは荷車だ。「ふーふー。」豆自動車荷車の後から砂煙を立て、通りぬけて行く。「荷車一臺、自動車一臺」と響く。そのうちに自轉車が三臺續いて走つて来た。二人は帽子をていさいよくちこつとかぶり、残りの一人は戦闘帽をかぶつて居た。

ひよいと時計を見ると二分と少し經つてゐる。「はた／＼はた。」威勢のよい音、かなり早い速さで、オートバイが本町の方へ走り去つた。砂煙を立て、少しすると牛車が来た。大きな箱をたくさん積んでゐる。牛はよだれをたらしながらはあ／＼言つて必死である。丁度五分になつたので止めた。

(ロ) 人

おばあさんと子供がいかにものんきさうに通つた。子供が向ふから走つて来た。それ五人、又一人とかいてゐると、とう／＼五分間は經つたので止めた。次に今調べた結果を示さう。

(イ) 乗りもの(五分間調)

自動車 一、自轉車 七、荷車 一、オートバイ 二、合計 十一

(ロ) 人(五分間調)

大人 八、小人 十一、合計 十九

候は考へた。若しこの割合で、一時間、一日、一月、と調べて見た

らどうだらう。

僕は今更のやうにびつくりした。一月の間には乗りものが實に約四萬七千臺。人が約九萬人となるのである。我々がふだんは何とも思はずに通つてゐるこの道が、このやうに我々人間の爲に働いてゐるのだと思ふと道路に對する感謝の念が自らわいてくる。同時に道でいたづらしたり、道をこわしたり、人や馬の通るのにじやまをしたりするものではないことがよく判つた。

もし國內の交通が少しでも不便になると云ふことがあつたら、戦ふ力をそれだけ弱めることになるのである。要するに道路を愛護することはすなはち戦力増強の大きなつとめだと思ふ。

## 道路修理

尾國校初六 河内山正義

十二月四日土曜日の午後の一時から、少年團の勤勞作業で縣道の修理をしました。全體が六班に分かれて、學區の北端秋森の曲り角から大久保部落の南方まで約五軒にわたつて行ひました。私達の班は、校長先生の引率で南端の約一軒程を分擔しました。

道路の掃除は毎月一回以上奉仕作業ですが、この邊までは參りませんので、相當いたんで居りました。潮のしぶきを浴びて小石の洗ひ出されてゐる場所もあり、又九月の大雨で土砂を押し流したため、溝の埋まつてゐる所もありましたが、中でも往來の人々が最も困られるのは自動車のわだちの跡であらうと思ひました。こんな場所では、早朝や夕方などに自轉車通動をなさる産業戰士の方々の怪我が起るかも

わかりません。又猫車やリヤカーを押して通られる村の人々も大層難儀をなさいます。それで私達は早速手分けをして修理をはじめました。大きい者は鍬で溝上げや、わだちの切りならしをし、小さい者は石拾ひや草けづりをしました。三十人餘りゐるので仕事がどん／＼はかどります。

柳井、平生、佐賀、室津を通ずるこの縣道は、昨年八月二十七日の風潮害で大變こわれましたが、とりわけ當地から佐賀までの間はひどい損害を受けました。自轉車をかきいで通つたり海の砂の中や崩れた石垣の間を歩いたりする所がたくさんありました。中等學校へ通學する生徒さん達がとても難儀をしました。今迄それ程に考へたことはありませんでしたが、道路といふものはほんとうに役に立つものであると思ひました。有難いことに今では以前にもまさる立派な道路がつくられて、毎日バスも通つてゐますが、これは全く國や縣のおかげであります。元來人手の足らないこの頃でありますから、修理や掃除は出来るかぎり、私達の手でしたいと思つて居ります。道路がよいと村の人々もそれだけよく働かれると思ひます。

せつせと働いてゐると體があたままり、仕事もどん／＼はかどつて、道路が立派になつて行くので大變愉快でありました。時々通られる人々がにこ／＼して居られ、中には「苦勞ですな」と申される方もありました。私達は一層力強く鍬を握りしめて、四時頃まで元氣一ぱいに働きました。今日は何とも云へぬ愉快な日でした。校長先生も退禮の時に「今日は兵隊さんの様によく働きましたね。ご苦勞でした」と

申されました。

### 道路愛護

鹽田校高二 末廣 忠

「カン／＼／＼。」

校庭に響きわたる第六時限の始業の鐘で一同は静かに定めぬ席にいた。今日は僕等の少年分團當會だ。誰の顔も元氣一ぱいに引締つてゐる。

今月の我が分團の實踐項目の一つに「道路愛護」を入れたので、壇上に立つた僕は皆に、相談することにした。

「皆さん、今月の實踐項目に「道路愛護」を入れませう。私達は道路なくしては一日も生活し得ることは出来ません。二十五名の團員が打ちつれて、かうして毎日愉快に通學出来るのも皆立派な道路のおかげです。道路があつた空気や水のやうにあまりにも御恩が大きいです、私達は有難さを感じないのです。

交通と云ふことが一國の産業文化に及ぼす影響は、實に大であります。殊に決戦下の今日は、我が國の輸送力と云ふものが、戦局に及ぼす力は實に大であります。私達はかう考へる時、今まで何の氣なしに通つてゐた道路の重大使命を今ひし／＼と強く感じるのであります。『村の道は僕等少年團の手で』と云ふ決心を一層かためて下さい。たつた一人のあの道路工夫さんや、春秋二回の大人の手にまかしてゐたのは、戦争に勝ち抜き立派な道路は出来上りません。あのお宮の下が大雨の度毎に悪くなつて、馬車や自転車が困つてゐるのを見るでせう。

きつと僕等の手で立派にしませう。来る十二日の日曜に我が須賀分團の道路奉仕作業をやりたいと思ひます。皆一生懸命やつて下さい。僕は、自分の信ずることを一同に話した。皆よろこんで元氣にさんせいしてくれた。

いよ／＼来る十二月十二日は、午前中僕等少年團員のお國へつくす御奉公の日だ。二十五名の尊い汗によつて立派な道路になり、馬車やトラックがやす／＼と物資を運搬する勇しい姿を念頭に畫いて、團員一同その日を指折つて楽しみに待つてゐる。

